



要求満額回答をめざして 「17春闘」第1回交渉 開催!

ジェイアール・イーストユニオンは2月28日、2017春季生活闘争申入れ「申第4号」第1回交渉を開催した。今交渉に際しては、2月以降、他労組と会社側との不明瞭な対応が明らかになっており、交渉前段に、この間の経緯の説明を求める事態となった。

労使間の協約に則った「信義誠実」な交渉を求める!
東労組との事前確認「ルールを逸脱した対応」は許されない!

当日は、申第4号に関して、当方組合側からの主旨説明を行うものであったが、冒頭、この間、2月8日付で出されたJR東労組の「業務速報」申14号について、春闘交渉以前に交わされたという「確認」事項について、私たちはこれまでの経緯について説明を求めた。

会社側は、労使協約に基づき、申し入れのあった中身の交渉を行い、その時機における会社側の考え方を述べたものであり、掲出されている内容については間違いない。また、ルールを違反、逸脱したものとは考えていない。しかし、他の労組への配慮などに欠ける部分があったのではないかと、もう少し出来得ることがあったかもしれないとの認識を示した。

今次交渉を始める上で、組合側からは、非常に残念であると訴えるとともに、理解しがたいものがあると強く主張した。また、この事象について、背景にはストライキ権や36協定があるのではないかと指摘したが、会社側は否定した。

交渉は一時中断の後、組合より「申入れ主旨説明(項目のみ)」、会社側から「現状認識等」について説明があった。組合側からは、特にグループ体となった賃金の底上げをはからなければ、この先の30年を見たらうえて、将来的なJR東日本の発展、持続的な維持成長はないと訴えた。

**2017春闘は「JR30年の分岐点」
JR東日本を未来へ繋ぐために!**